

科目名	FBL-X：レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プログラム [総合科目Ⅰ（CreativeSchool応用編（オープンイノベーションコース））]
担当	鶴田 宏樹
授業のテーマ	本授業は、Creative School基礎編で培った「考え方の考え方」に基づいて、実社会における課題に対してソリューションを提案してもらう課題解決型学習です。本講義は、文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業における「レジリエンス社会の構築を牽引する社会起業家精神育成プログラム」として開講し、神戸大学・東北大学・宮城大学・北海道大学・小樽商科大学・徳島大学が共同で実施するプログラムの一部に含まれます。今年度のテーマは、「被災地に学び、未来の防災・減災を考える～南海トラフなど来たる自然災害に備える～」とします。東北でのフィールドワークを通じて、東日本大震災における復興プロセスを振り返りながら、今後発生するであろう我が国の大規模災害に対して、徳島にて新しい復興／防災・減災の在り方を考えることで、未来のレジリエンスについて考える機会を設けます。
授業の到達目標	<p>本プログラムにおいて、レジリエンスとは、「システム・企業・個人が極度の状況変化に直面した時、基本的な目的と健全性を維持する能力」（「Resilience」 Andrew Zolli and Marie Healy [2013]）と定義し、レジリエント社会の構築を牽引する人材を「社会システムの脆弱性を読み解き、災害による変化を予測して、創造的価値を生む事業を創出・持続できる人」と定義します。本定義に基づき、以下の4項目を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会システムの背景（歴史・文化・地理・産業など）を理解することができる。</li> <li>・極度の状況変化による影響（社会システムのダメージ・ステークホルダーの心理など）を理解できる。</li> <li>・自助・共助・公助の視点を有する。</li> <li>・社会的価値と経済的価値を両立する事業を設計することができる。</li> </ul>
授業の概要と計画	<p>○9月集中講義（開講日程は未定：追って連絡します） 遠隔講義（オンデマンドとリアルタイム）で開講します。</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義「レジリエント社会とは何か」 講義とワーク「社会システムとその脆弱性」 講義とワーク「極度の状況変化による影響」 講義とワーク「極度の状況変化を理解するーインフラ・心理ー」</p> <p>第2回 視察「女川町」 講義「自助・共助・公助の仕組み」 視察「雄勝町」 グループワーク 発表とフィードバック</p> <p>第3回 講義「来たるべき大規模災害の予測」 講義とワーク「発災・復旧・復興の時間的全体俯瞰」 講義とワーク「社会的価値と経済的価値の両立」 講義とワーク「レジリエントを高める事業を描く」 グループワーク 発表・フィードバック</p>

	<p>履修を希望する学生は、7/26までに、担当教員・鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）まで以下の情報をメールで送付してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・件名：2024 CS応用編 受講希望・文章中に、氏名・学部・学籍番号</li> </ul> <p>ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」（後日送付）により選考する可能性があります。</p> <p>フィールドワークにおける旅費・宿泊費は大学で負担しますが、旅費の起点は大学発着となり、経路から逸脱（自宅宿泊等）することはできません。</p>
成績評価方法	<p>講義およびグループワーク参加状況・発言内容（60%）と期末レポート・プレゼンテーション（40%）により総合的に評価します。</p>
成績評価基準	<p>講義および授業中のグループワーク参加状況(60%)と期末レポート（40%）により、積極性や論理性を絶対評価として総合的に評価します。終了時のレポートが期日までに提出がない者は、単位認定の対象となりません。</p>
履修上の注意 (関連科目情報)	<p>履修を希望する学生は、7/26までに、担当教員・鶴田（tsuruta@kobe-u.ac.jp）まで以下の情報をメールで送付してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・件名：2024 CS応用編 受講希望</li> <li>・文章中に、氏名・学部・学籍番号</li> </ul> <p>なお、学部生で総合科目Ⅰとしての単位認定を希望する場合は、メールの文章中に「<b>単位認定希望（V.School生）</b>」と記入してください。また、総合科目Ⅰとしての単位認定が不要で、V.Schoolとしての受講認定のみを希望する場合は「<b>単位認定不要（V.School受講認定のみ希望）</b>」と記入してください。大学院生の場合は、「<b>大学院生（V.School生）</b>」と記入してください。</p> <p>ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」（後日送付）により選考する可能性があります。</p> <p>受講が認められた場合は、<b>V.SchoolHPからの受講登録</b>も行ってください。</p> <p>本授業の履修者は、基本的に第2Q開講の「Creative School基礎編」を受講した学生を対象としています。基礎編で学んだ思考法をこの応用編の課題解決型学習で実践してもらいます。この授業の定員は約6名です。履修方法は第2Q「Creative School基礎編」でも案内します。</p> <p>受講登録については、共通教育K棟掲示板および「Creative School基礎編」の講義中にも案内します。</p>
事前・事後学修	<p>事前学習および事後学習として、BEEFに事前掲載した資料の関係する部分を読んだうえで、疑問点をまとめておくこと、事後学修は、授業で学んだことを整理する。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。</p>
オフィスアワー・連絡先	<p>鶴田宏樹（つるたひろき）  自然科学3号館4階415室  Tel: 078-803-5946  mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp</p> <p>祇園景子（ぎおんけいこ）  工学部2W-204号室  mail: kgion[at]port.kobe-u.ac.jp</p>

学生へのメッセージ	大学の中には、見えないことがたくさんあります。実際に社会を見て、問いを立て、課題を設定することを常に心がけてください。グループワークによる議論から、他者の考えを聞き出し、複数の異なる意見を統合することに挑戦してみてください。とても難しいですが、まずは、異なる意見の関係性を構造化して可視化してみましょう。
今年度の工夫	復興／防災・減災に係る事業創出について体系的に教示する。復興／防災・減災に係る事業創出におけるコミュニティを他大学と連携して構築する。フィールドワークを充実させる。
教科書	授業前日までに配布資料をBEEFにアップロードします。
参考書・参考資料等	
タイトル1	レジリエンス復活力：あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か
著者名1	アンドリュー・ゾッリ 他
出版者1	ダイヤモンド社
出版年1	2017
ISBN1	9.78448E+12
キーワード	レジリエンス 復興／防災・減災 課題解決 フィールドワーク 新規事業創出 遠隔授業